

## 「米国の核実験の犠牲者は、これ以上の補償をされるに値する」

### The Victims of US Nuclear Testing Deserve More Than This

W.J.ヘニガン/ニューヨーク・タイムズ紙 W.J. Hennigan/The New York Times

2024年5月25日 rsn.org より

<https://www.rsn.org/001/the-victims-of-us-nuclear-testing-deserve-more-than-this.html>

何十年もの間、核実験場周辺の住民や核兵器製造に携わる人々は、希少がんや自己免疫疾患などの病気に苦しんできた。(写真：ジェームズ・リー・チアハン)

5月23日

先週、手術の傷跡、長い病歴、死後長い年月を経た愛する人の色あせた写真を携えて、男女が国会議事堂に集まった。全米から集まった彼らは、議会のホールを歩き、議員たちに米国の核兵器プログラムがもたらした人的犠牲を見せつけた。

彼らは自らをダウンウィンダーと呼び、核実験場の近くに住んでいた人々の世界的なコミュニティである。アメリカでは1945年から1962年まで、ニューメキシコとネバダで100以上の核実験が行われた。何十年もの間、これらの核実験場近くのコミュニティのメンバーや、核兵器製造に携わった人々は、稀なガンや自己免疫疾患、その他の病気に耐えてきた。しかし、連邦政府から補償を受けたのは一部の人たちだけである。

先週ワシントンを訪れたダウンウィンダーの人々は、ユタ州、ネバダ州、アリゾナ州の「放射線被曝補償法」(RECA)の対象地域に住んでいないため、現在連邦政府からの補償を受ける資格はない。1990年に制定されたこの法律は、米国の核実験中やウラン採掘中に有害な放射線に被曝した人々に数十億ドルを提供してきた。しかし、1945年にJ・ロバート・オッペンハイマーのチームが最初の原爆実験を行ったニューメキシコ州南部を含む多くの被曝地域は、補償対象から外されている。

これらの地域の人々は、この法律に含まれるよう闘い続けてきた。現在、RECAは6月7日に期限切れとなり、プログラムに終止符が打たれることになっている。議会で停滞している法案は、この法律を延長し、健康被害が核兵器プログラムに関連していると記録されているほぼすべてのアメリカ人に補償を拡大するものである。ホワイトハウスもこれを支持している。上院は3月、69対30という珍しい超党派の賛成多数で可決した。

しかし、マイク・ジョンソン下院議長はこの 2 ヶ月間、上院法案の下院採決を拒否してきた。水曜日の時点で、RECA が期限切れとなり、影響を受けたすべてのコミュニティへの補償と健康診断が打ち切られるまで、議会はあと 7 営業日しかない。

連邦政府は市民を守る責任がある。機密解除された文書によれば、冷戦時代に数十年にわたって人々を危険な放射線にさらし、その後、健康リスクを軽視し、否定し、無視したとき、ワシントンはその義務を裏切った。アメリカの被曝者は、この怠慢のツケを払わされたのだ。今、彼らは政府に損害賠償を求めているだけだ。

バーニス・グティエレスさん (78) のように、1945 年 7 月、彼女の故郷であるニューメキシコ州カリーゾソから西に約 35 マイル離れたトリニティ爆心地で世界初の原子爆弾が炸裂したとき、生後 8 日だった人々が負担した費用を考えてみよう。

爆心地から半径 150 マイル以内に住んでいた約 50 万人のうち、誰も警告を受けなかった。トリニティ実験の爆発量は 21 キロトンで広島原爆の約 1.5 倍で、キノコ雲を 35,000 フィート以上上空に飛ばした。目撃者によれば、ニューメキシコでは灰が何日も降り注いだという。雪のように、貯水槽や開け放たれた窓、農作物畑や放牧地に降り注いだ。

それ以来、グティエレスさんの家族のうち 29 人がさまざまな種類のがんと診断された。56 歳で白血病で亡くなった息子のトビー・ジュニアを含め、数人が亡くなった。娘のジャンヌは甲状腺癌の治療を受けている。グティエレスさんは医師の勧めで甲状腺を摘出したが、その理由は医師が、癌の診断が陽性であることはほぼ確実であると彼女に告げたからである。「私たちは、癌になるかどうかなど尋ねません。"いつなるのだろう"と考えるのです」。

世界中で、甲状腺障害は放射性降下物や核汚染による健康への影響として最も広く見られるもののひとつである。甲状腺は、核実験で使用された核分裂の副産物である I-131 と呼ばれる放射性ヨウ素を吸収する。これは甲状腺内に濃縮され、甲状腺疾患のリスクを増加させる可能性がある。一人の人間の癌の診断を、核実験による放射線被曝と直接結びつけることは不可能だが、国立癌研究所は、全米で 11,000 から 212,000 例の甲状腺癌が、ネバダ州の地上核実験による放射性降下物への被曝と関連していると推定している。

ニューメキシコ州では、2010 年の疾病管理予防センターの調査で、トリニティ実験場周辺のいくつかの家屋の放射線レベルは、現在公共の場所で許容されているレベルのほぼ 10,000 倍に達したと指摘されている。また、トリニティ実験の放射性物質が、長さ 100 マイル、幅 30 マイルに及ぶ地域に降り注いでいることも指摘した。さらに最近の研究では、実験による放射性降下物は風に乗ってもっと遠く、46 の州、カナダ、メキシコにまで運ば

れたことが示されている。グティエレス氏は次のように語った。「放射能について何も知らなかったことを、政府は利用したのです。私たちは放射能の因果関係について何も知らなかったのです」。

RECA に基づくダウンワインダー給付金の受給資格を得るには、ネバダ核実験場での地上実験が最も盛んだった 1951 年 1 月 21 日から 1958 年 10 月 31 日まで、または 104 キロトンの爆発で 1200 万トンの土砂と岩石が飛散し、その多くが大気中に放出され、塵や雨となって地上に戻った 1962 年 7 月までの少なくとも 2 年間、約 20 の郡のいずれかに住んでいたことを証明しなければならない。

さらに、政府が核開発計画と関係があると判断した 19 種類のがんのいずれかに罹患していなければならない。すべての項目に当てはまれば、50,000 ドルを受け取ることができる。この法律が施行されて以来 30 年間で、41,200 件の請求が承認され、約 26 億ドルが支払われた。これに対し、9.11 犠牲者補償基金では、6 万 5 千人以上の請求者が約 200 億ドルを受け取っている。

新法案は、補償の対象者を特定のウラン鉱山労働者に拡大し、現在の認定被災地リストをコロラド州、アイダホ州、モンタナ州、ニューメキシコ州、ミズーリ州、グアムやその他の地域にも拡大する。また、遡及的にも新規請求者についても、補償額を一人当たり最高 10 万ドルまで引き上げる。

秋に議会予算局は、RECA の拡大による予想コストを 10 年間で 1400 億ドル以上としていたが、その後スポンサーは法案を修正し、コストを 500 億ドルに近づけたという。ユタ州選出のマイク・リー上院議員とミット・ロムニー上院議員（共に共和党）は、両議員の事務所からの発表によると、この法案に含まれる他のいくつかの側面と、より低い価格設定に異議を唱えている。彼らは先月、現行の RECA 法を 2 年間延長するだけで、グティエレスさんのような人たちの保険適用を拡大することなく、対抗する法案を提出した。

両議員は、空軍史上最も高価な兵器プロジェクトのひとつである、核弾頭を搭載した大陸間弾道ミサイルを数百基製造するという米軍の計画を支持しており、両議員の地元で約 4000 人の新規雇用が約束されていることを考えると、彼らの財政的反対は驚くべきことである。空軍は最近、このミサイル製造計画が当初のコスト予測を少なくとも 37% 上回り、1300 億ドル以上に達したと議会に通告した。

核兵器廃絶派は、世界的な軍拡競争の一翼を担う核兵器プログラムに資金を提供する一方で、核兵器廃絶の犠牲者の治療を拒否するのは二枚舌だと言う。「核兵器が機能することを

私たちは知っています。それは冷戦時代の実験のおかげです」と、ソルトレイクシティで育ったメアリー・ディクソン氏は言う。ソルトレイクシティはネバダ州の実験場から約 350 マイル離れたところにあり、そこでは 1992 年までアメリカによる核実験が行なわれていた。これらの地域社会は、米国を世界唯一の超大国へと成長させる上で重要な役割を果たしたが、後に軽視されることになった。

ディクソンさんと彼女の家族は、実験が行われていた時代、現在の RECA の境界線の北側に住んでいた。しかし 29 歳の時、彼女は甲状腺がんを診断された。数年後、姉のアン・ディクソン・デバークは自己免疫疾患との長い闘いの末、46 歳で亡くなった。2 番目の姉も胃がんを診断され、3 番目の姉は自己免疫疾患を患っている。

先週ワシントンで、小さなグループがジョンソン氏と会い、ジョンソン氏と他の議員たちを説得し、彼らの犠牲に報いようと最後の努力をした。私物を売って旅費を工面し、初めて参加した人もいた。また、ディクソンさんのように、アメリカ政府が何をし、何をしなかったかについての認識を高めるために、定期的に議会を訪れている人もいる。

彼女は 30 年もの間、ダウンウィンダーの窮状に注意を払うよう、有権者に議会の代表者に圧力をかけるよう促してきた。「私は幸運にも良くなりました。夫を結腸がんで亡くした従姉妹は、いつも私に言うんです。『あなたの物語は悲劇的に終わらなかった。その悲劇的な物語をもとに、あなたは前に進めることができます。私は、彼ら全員のために正義を求める強い義務を感じてきました』」。

今こそ議会はこの過ちを正すときだ。何千人ものアメリカ人を、救命のための健康診断や補償を受けられないままにしておくという選択肢はあってはならない。ジョンソン氏は、RECA の延長と拡大について下院に投票させるべきであり、議員たちは賛成票を投じるべきである。そして議員たちは賛成票を投じるべきである。このアメリカ人たちはあまりにも長い間待っているのである。

(翻訳：山根和代)